

第2回 南第一小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2024年2月6日（火） 13：58～15：32	
開催場所	町田市立南第一小学校 3階 家庭科室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	水野委員、永田委員、大原委員、村松委員、細野委員、橋本委員、◎安東委員、○秋場委員（◎会長 ○副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第1回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

委員 PFIとは何の略か。

新たな学校推進課 Pがプライベート、Fがファイナンス、Iがイニシアチブで、プライベート・ファイナンス・イニシアチブの略。

2 報告事項

新たな学校推進課 （資料2-1説明）

新たな学校推進課 （資料2-2説明）

委員 荷物らしく登校という試行をしているということがとてもうれしい。ランドセルから少しでも軽く、両手の空く何でもいい軽量なリュックタイプのものを選べるということが保護者としては子どものためを思うとうれしい。

リュックサックにすれば、重いクロームブックを入れても、ランドセルよりは器としてリュックは軽いというイメージがある。絵の具もなぜ毎回持って帰っているのか分からない。習字のバッグも、家で洗って学校の水道代の節約をしているのか、学校の水道場を汚さないようにしているのかと思っているが、自分たちの頃は学校で洗っていたイメージがある。家を汚されるのは正直とても困るが、洗い方の指導を学校でもしていると思うが、学校で洗うことでそれぞれの洗い方について意見交換ができるのではないかと思う。そういったメリットもあるため、全てのものを持ち帰らないといけないというわけではないと思う。

高学年になるとランドセルが体の割には小さ過ぎ、アンバランスに見えるため、ランドセルという指定がなくなるという。また、ランドセルをしょっていることで、登下校のときに不審者からターゲットにされる可能性もある。登下校している子どもなのかが分からないという意見が資料に記載されていたが、逆に、一般の人との見分けがつかないというメリットもあるため、安全面でもとてもいい取組だと思う。なるべく早く南第一小学校でもやってもらいたい。

委員 ランドセルというのは小学生の象徴であり、小学校1年生になった際の大人から

のプレゼント、毎日一緒に学校に通っているお守りのような存在だと思っている。小学校6年生になり、体が大きくなり、ランドセルが小さくしわしわになって、一緒に6年間通ってきたんだと、親もうれしく思っている。自由なかばんとなると、おそらく6年間使わず、好きなタイミングで好きなものに替えてしまうのかと思うと、寂しさがある。また、学校帰りであり、まだ家に帰っていないという目印になると思っている。

子どものランドセルを持つと大人でも重く感じ、これを持って歩いているんだというぐらい驚く。クロームブックを持ち帰らないことでクロームブックでの宿題が出せなくなったというデメリットがあるかと思うが、クロームブックでの宿題は効率が悪いと親目線では思う。例えば、算数で1問解けているのに、機械のエラーが出たり、漢字はきれいに書くのではなく、機械が認識しやすく書かないと〇にならない。これをやるのであれば、紙で勉強したほうが明らかに能力が上がるのではないかと思う。ランドセルは残しつつ、中身を工夫することで、その重さを減らすことができればいいと思う。

また、ランドセルは、事故などで倒れたときに後頭部を守るような効果があったと思うため、小学校6年間はランドセルをしょってくれたほうがいいなという思いが親としてある。

委員

安全面からいうと、ランドセルは子どもの体を守ることができ、ランドセルをしょっていることで地域の方の目が子どもたちに向いて、見守りをしていただけるところは非常に大きいと思う。特に下校の際に、公園で遊んでいる子どもがランドセルを置きっ放しにしている、まだ家に帰っていないのでは、というような話を学校に電話していただくこともあるため、目が行き届くという意味でランドセルはすごく大事だと思う。

持ち帰りが大変なものについて、学校でも随分工夫を重ねており、持ち帰りの必要のない教科書は学校に全て置いていく「置き勉」を行い、なるべく子どもたちに負担のないようにと工夫はしている。もうこれ以上の工夫は難しいくらい徹底して少なくするようにしている。クロームブックがもう少し進化して、薄く軽くなることを期待している。

また、教科書は今後電子版が進んでいくかと思うため、先のことも見通しながら、荷物について考えていくといいと思う。

委員

クロームブックは、1人1台端末を持ち始めた際には、とにかく毎日持ち帰るように国レベルでの通達があった。しかし、活用が進むにつれて、それぞれの学校や学年、学級の子どもの実態に応じた効果的な活用をするように変わってきた。本校も必ずしも毎日持ち帰らず、そのときの学習の課題など、必要に応じて持ち帰るようにしている。本校は全校テストを行っており、テスト前にはnavimaを使った反復学習のために毎日持ち帰るような時期もある。クロームブックの持ち帰りの頻度は学年裁量であり、そのときの学習状況による。

地域によっては、クロームブックのようなノートパソコンではなく、iPadの

ような形だと随分重さが違うと、他地区から来た先生たちが言っていた。やはりクロームブックは重いというのは現実であるため、そのあたりを町田市としてどうしていくのか、という課題もあると思う。

新たな学校づくりの視点では、学用品そのものの考え方を改めて取り組んでいくというチャンスでもあるのかと思う。絵の具セットや習字セットも、必ず1人1セットというのではなく、共有できるようなものを学校で用意して、子どもたちは筆だけ自分のものを持つようにしたいり、多少の消耗品費を集めて、絵の具は一括購入したりしてもいいかと思う。低学年は絵の具のスタート時は共有のものを使っているため、そういった考え方を見直すチャンスだと思う。1人1セットずつというのであれば、新しい学校にはきちんと収納できる環境を整えていただければ、最低限、筆だけ洗うために持ち帰るということができ、洗い場も工夫をすれば一切持ち帰らずに済むのではないかと思う。

委員 私たちが小学生のときは1クラス50人以上の時代で、個人の持ち物を置くスペースもなかった。今は少子化であるため、簡単なロッカーみたいなスペースもつくれるのではないかと思うため、無駄なものは持たせないでいいと思う。何とか楽になるようにしてほしいが、むやみに甘やかさないようにしてほしい。

委員 今の子どもたちは6年間ランドセルを使っているのか。

会長 使っている。

委員 私たちの頃は、高学年になるとランドセルが壊れてしまい、かなりの子が違うかばんを持ってきていた。今はそういうことはほとんどないということか。

会長 ほとんどない。

委員 この調査自体は非常に面白く、前向きにやっているように感じる。町田市としては、今後もなるべく子どもたちの登下校時の荷物の軽減を図り、身軽に登下校させようという方向性なのか。

新たな学校推進課 学校の統合を進めるうえで、荷物が重いということが今の学校の課題としてある。保護者の方だけでなく、地域で見守っている方々からも、重そうに見えるという声がある。両手がふさがることもあるため、楽にしていきたいという考えがある。

そもそも重いのか、数が多くて手がふさがるとか、実験をして、その結果を受けて対策を考えていくのが今回の取組の目的。

通学時の荷物を可能な限り楽にしていくという方向で動いている。

委員 私の孫のランドセルも本当にかかり重いですね。大人が持ってもかなり重く、これを1年生に持たせるのかと驚いた。宿題のためにクロームブックを持って帰ってこなくては行けないが、教科が多くなると教科書も多くなり、歩いて帰ることを考えると非常に負担がある。

健康被害が数値的にどうというのは特に出していないかもしれないが、家へ帰ってくるとかなり疲れているように感じる。子どもたちの健康も考えて負担軽減するという方向性は非常にいいと思う。

しかし、荷物だけ軽くするのではなく、学習の内容や家庭学習の方法など、授業を

どうするのかなど、そういうところからメスを入れないと根本的な解決にはならない。新たな学校をハードとソフトの両面から考えていってほしい。

ICTを取り入れた時点では、クロームブックばかり使って、時間ばかりかかって学習の効率が非常に悪いことがあったが、最近は大分そのあたりは精選されてきている。

私は今、中学校にも行っているが、意味調べや英語の単語調べもタブレットで行っているため、中学生の子どもたちは英語と国語の辞書がほとんど引けない。高校生は、都のほうから全高校生にサーフェスを1台3万円で購入してもらっているが、サーフェスは結構軽い。しかし、ほとんどスマホを使っている。今後、クロームブックから小学生用スマホなどに変わっていく気はしているが、町田市でクロームブック自体をどうしていくか、という研究をしてほしい。クロームブックはとにかく重く、動きも思い。

学校教育部長挨拶

会長 次の次第に入る前に、学校教育部長が公務の手が空いたため、ご挨拶をいただく。

学校教育部長 南第一小学校 新たな学校づくり基本計画推進協議会委員の皆様においては、2023年7月に設置して以降、本年度は全2回参加いただき、忌憚のない意見交換をしていただき、誠に感謝申し上げます。

南第一小学校地区は、新校舎の供用開始年度が2030年度となっている。当初の計画より遅れているが、その結果、新校舎の設計着手が2026年頃からを予定している。現時点ではあまり実感が湧かないかと思うが、南中学校に建てる仮校舎のことなど、皆様から意見をいただくことがあるかと思う。

本町田地区や南成瀬地区が先行して新たな学校づくりを進めているため、そちらの事例を共有しながら、新しい南第一小学校をつくっていききたい。

2023年度の協議会は本日で終了となるが、2024年度以降も引き続き、新校舎で子どもたちが教育を受けられるようになるまで、協議会において保護者の代表や地域の代表、学校の代表の方々と本事業の推進状況を確認していくとともに、必要な議論を行っていききたい。

施設課 (資料2-3説明)

会長 この図面の中には、学童保育クラブはこの辺りという想定になるが、「まちとも」などは今後実際に設計をする際にシェアしていくとこの辺りというのを考える必要があるかと思う。

委員 小学校の門になる都営側のきれいな新しい門は今は南中は使っていないのか。使っていない。

会長 小学生と中学生は門を分けるという想定でいる。

委員 理科の植物観察などの教材はどこかに置けるのか。

会長 いわゆる畑や花壇が小学校には必要だが、どうか。

施設課 植物の観察等については、今のところ敷地的なスペースの余裕がないため、仮グラウンドや駐車スペースを活用していくことを今後の設計の中で学校と協議しながら進めていく。

会長 仮校舎とはいえ、学習は取り組んでいかなければならないため、何か代替になるような形が取れるのか、学校側も模索していきたい。

新たな学校推進課 (資料2-4説明)

会長 これは既に掲載されているということか。

新たな学校推進課 掲載されている。

3 検討事項

新たな学校推進課 (資料3-1-1、3-1-2説明)

[ワークショップ]

4 閉会

新たな学校推進課 協議会は、新たな学校が開校するまで次年度以降も継続して開催していくが、現在の委員の皆様の委嘱期間は今年度で終了となる。次年度にまた、PTAや学校運営協議会、南地区連合会から推薦をいただいて、次年度の協議会委員を決めていく。次年度も今年度と同様に年に二、三回集まり、新たな学校づくりに関する情報共有や検討を行っていく。

会長 (閉会の挨拶)